

2019年3月期 第2四半期 決算説明会における質疑応答

開催概要

- 【日 時】 2018年11月16日（金）13：30～14：20
【場 所】 株式会社ゼンリン 東京本社（ワテラストワー12階）
【出席者】 代表取締役社長 高山 善司
代表取締役副社長 網田 純也
執行役員 コーポレート本部長 戸島 由美子

質疑応答概要

以下は、質疑応答の概要をまとめたものです。

- Q1： 上期の実績で、売上と営業利益がそれぞれ上振れていると思うが、それぞれについて、下期から上期への前倒しになった部分と、計画から純粋に上振れている部分はどれくらいあったのか。
- A1： 資料4ページにある売上高の業績予想比+11億円のうち、約半分が前倒しと計上時期の変更等によるもの、残りの半分が、当社がデータを提供しているカーナビメーカーの販売台数増加に伴う増収。カーナビに関しては変動費がほとんどかからないので、増収分が利益に貢献していると考えてよい。
- Q2： 自動運転関連市場は、完全自動運転と安全運転支援の部分に分かれてきているという話があったが、この上半期で、ビジネスモデルが変わってきている部分など、将来の事業の見通しについてアップデートがあれば教えてほしい。
- A2： 自動運転関連ビジネスにおいて、上半期に大きな変化はない。現在は、既存のナビデータにADASのコンテンツを付加することによる部分的な安全運転支援（例えば速度規制の情報を提供して注意喚起するなど）と、自動運転を実現する高精度データの整備という二つを継続して進めている。
- Q3： マーケティングソリューション事業について、大東マーケティングソリューションズを連結して1年が経ったが、バリューチェーン構築の進捗と、買収する前と今とで見通しが変わってきたようなことがあれば教えてほしい。
- A3： マーケティングソリューション事業は、商圏分析を行う現在のゼンリンジオインテリジェンスという会社をグループとしたことから始まっており、それまで個人・中堅企業では導入が難しかったマーケティングニーズに応えることを目的としている。大東マーケティングはもともと印刷会社であるが、顧客からの要望が単なる印刷物の提供から、課題解決までを求められるようになり、比率的にはマーケティング分野にシフトしてきている。ダイレクトメールを代行するゼンリンbizネクサスでも、単なるメール発送だけでなく、封入物のデザインや、配布エリアの選定まで要望されている。このように、お客様からのマーケティングに関する依頼は増加しており、当ビジネスは、利益の源泉となる事業に成長すると確信している。まだ少し立ち上げには時間がかかる見通しだが、これまで個々に受託対応していた案件のノウハウを整理し、ビジネスを構造化、商品ラインナップの体系化を行うことにより、汎用的なソリューションとして提供できるよう取り組んでいる。

Q4 : ストック型と売り切り型について、各事業についての考え方を教えてほしい。具体的には、プロダクト事業について、徐々にストック型に切り替わってきていると思うが、特に大手企業向けで、今後切り替えていく為に、どのような方針をとっていくのか。例えば、個々の商品を開発して切り替えていく必要があるのか、もしくは若干今までよりも価格の低いプランを提案するかなど、考え方を教えてほしい。またオートモーティブ事業についても、今後コネクテッドカー等が増加するにあたり、考え方の変化などがあれば教えてほしい。

A4 : ストック型への切り替えを促進するには、販売方法を e コマースに移行し、新商品を投入していくことが一番確実な方法だと思っている。現在は、例えば GIS パッケージでは、汎用性の高い商品を提供しており、まずは当社の営業がお客様に直面販売することで認知度を上げるプロモーションを担う販売戦略をとっている。今後ブランドが確立されれば、汎用サービスは e コマースにシフトし、より専用性の高い、業種だけでなく、業務にも特化した商品・サービスの提供を増やし、アップセル販売へと移行していきたいと考えている。

 オートモーティブについては、自動車メーカーも当然今後はクラウド型サービスに変更していくことが予想される。クラウド型でストック型の課金になると、従来の売り切り型よりも数字的には厳しい状態になる可能性もあるが、弊社が保有するデータベースコンテンツの利用用途を広げることによって維持、もしくは新たなアプリケーション開発によってプラスにしていきたいと考えている。今までにも説明してきたとおり、弊社のデータベースシステムは多様なサービスに柔軟に対応できる仕組みを構築しており、いわゆる MaaS 等に対しても対応可能な仕組みを考えている。実際にサービスを提供する場合には、自社単独で実施するのか、それとも他社を経由するのかによってビジネスモデルは変わってくると思うが、最適なモデルを構築していこうと考えている。

以 上